

新大

キャンパスライフをもっと豊かに

広報

| 特集 | 卒業生・修了生からのメッセージ

新たな夢へ 踏み出す一步

～新潟大学での学びと感謝を胸に～

学長からのメッセージ 新潟大学長 牛木 辰男

No.217

[2021年 卒業記念号]



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

コロナ禍を

新潟大学長

牛本 勇

過ごしたことを

ばねにして

卒業生、修了生の皆さん、卒業、修了まことに
おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本来ならば、この晴れがましい出来事を、朱鷺
メッセで一堂に会し大いにお祝いしたいところ
ですが、昨年からのコロナ禍が収束しないため、
オンラインとのハイブリッドという制約のかかっ
た式になってしまいました。どうかご理解いただ
きたいと思います。

また、大学生活も、この1年はオンラインを基
本とした非対面式の授業が主となり、級友と会う
機会もすっかり減ったのではないかと思います。

課外活動においても、大会の参加ができないな
ど、苦しい思いをしてきたことでしょう。のびのび
とした大学生活を送ることができずに卒業を迎
えることになったことは、大変残念なことでした。

しかし、コロナもやがて収束します。これから
皆さんが活躍する社会は、コロナ前に進んできた
グローバル化とともに、コロナ禍で加速したデジ
タルトランスフォーメーション(DX)が益々進
んでいくことになるでしょう。IoT、ロボット、
人工知能(AI)、ビッグデータ等の新たな技術
が、リアルな空間と融合しながら社会が進展す

新たな夢へ 踏み出す一步



～新潟大学での学びと感謝を胸に～

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

新潟大学での学生生活はどんなものだったでしょうか？

たくさんの学びや出会いがあったと思います。

楽しかったこと、嬉しかったこと、大変だったこと…。

みなさんが学生生活で最も印象に残っていることや、

卒業後の進路選択について教えてください！

人文学部

人文学科 社会・地域文化学プログラム

金子 明暉 KANEKO Haruki

学生生活で最も印象に残っているのはダブルホーム活動です。阿賀町を活動拠点にして地域の方々の協力を得ながら新たなプロジェクトに取り組み始めました。ダブルホーム活動を通して学内では経験することができない貴重な経験をしたことが自分の将来について考えるきっかけにもなりました。プロジェクトは長期的なものになっていて、これからどのように変化していくのか楽しみです。



これからの
大志を
実現

4月からは地元で公務員として働きます。大学4年間で培った様々な経験がきっと役に立つと信じて、信頼される人材となれるように頑張っていきたいと思います。

ることになると思います。そして、このように予測が極めて難しい時代を生き抜く力を持っているのは、コロナ禍を過ごした皆さんです。

どうか、皆さんが社会に出て、新潟大学の理念「自律と創生」を忘れずに進んでください。「自律」は自分自身で立てた規範に従って行動すること、「創生」は新たなものを作り出すことです。この理念のもとで、皆さんは自分自身を磨き、柳の

枝のようにしなやかで折れない「真の強さ」を持った人材に育ってくれたと私は信じています。どうか、新潟大学を巣立ってもその心を忘れずに、そして、常に知的好奇心を持ち続けて活躍してください。

新潟大学は皆さんの母校です。ここで学んだ誇りをもって、未来への一步を踏み出してください。皆さんに幸多きことを心から祈っています。

Q1

学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。

経済学部

経済学科

酒井 美幸 SAKAI Miyuki

学生生活で最も印象に残っていることは、3年生の春にイタリアへ旅行したことです。日本とは異なる文化や価値観に触れてみたいと思いイタリアへ行きました。この経験から、多様性の面白さ、そして「常識」は「常識」でないことを学びました。所変われば、大切に行っていることや考え方・価値観も異なります。常識に囚われず、自分に正直に、自分の中の王道を歩んでいこうと感じました。とても単純ですが大切なことを気づかされた、私にとってかけがえのない経験です。



これからの大先輩

私は、春から他大学の大学院へ進学をします。新しい環境でも、周りの人への感謝や謙虚さを忘れず、たくさんの方に挑戦したいと考えています。卒業後、社会に貢献できるよう、より一層精進していきます。

教育学部

学校教員養成課程 美術教育専修

藤崎 仁美 FUJISAKI Hitomi

私が最も印象に残っていることは、3年次に行った海外研修です。ヨーロッパの様々な美術館や建築物を鑑賞することができ、大変勉強になりました。今までネットや画集などではしか触れてこなかった作品の生の力に圧倒された、とても貴重な経験でした。言語の面で不安なことも多かったですが、友人に支えられ楽しく過ごすことが出来ました。今後も様々な芸術に触れ、充実した日々をしていきたいです。



これからの大先輩

私は春から中学校の美術教諭になります。美術は得意不得意のある科目ですが、苦手な生徒にとっても楽しく学べる授業をすることが目標です。そのために、生徒一人一人に真摯に向き合う教師を目指します。

理学部

理学科 化学プログラム

柳 優也 YANAGI Yuya

私の大学生活で最も印象に残っている経験は、サイクリング部での合宿です。この合宿というのは、春夏の長期休暇を利用してロードバイクで北海道や九州などを10人程度で旅をするというものです。この活動を通して、自分はPDCAサイクルの活用やトラブルが起きた際の対処技術など様々な事を学びました。自分にとって大学生活は、専門知識を学ぶだけではなく部活動等の課外活動を通じて経験を積むことができ、大変実りあるものでした。



これからの大先輩

私は来年度から新潟大学大学院自然科学研究科に進学します。大学院では、これまで行ってきた研究をより深め、これまでの大学生活と同じように、自分にとって有意義な大学院生活にしたいと考えています。

法学部

法学科

塚原 風門 TSUKAHARA Kazato

入学して法学を学び始めたころは、一つの判例や条文に対する学説の多さに戸惑い、それらを学ばなければならないことに煩わしさを感じていました。しかし、演習や課外活動を重ねていくにつれて、他者の考えに触れたり、異なる意見にも耳を傾けたりするからこそ、自分の考えが深まったり、説得力が増したりすることに気がつきました。今では、そうした多角的に考えることが、普段の生活においても活かされています。



これからの大先輩

4年間で培った「物事を多角的に捉える力」を大切にしたいです。そして、さまざまな立場にある方々の意見を尊重しながら、真摯に、前向きに仕事に取り組み、信頼される社会人となるよう、精進します。

Q1

学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。

歯学部

口腔生命福祉学科

金子 由依 KANEKO Yui

緊張と不安がいっぱいの中、始まった病院での臨床実習はとても充実した日々でした。自分の知識不足・技術不足を痛感することが多くありましたが、試行錯誤しながら少しずつでも確実に自分自身の成長を感じることができました。また、患者様に喜んでもらった時や、「ありがとう」と言われた時は特に喜びとやりがいを感じ、今でも印象に残っています。約1年間実習をしていたため、全ての実習を終えた時の達成感と寂しさはいい思い出になりました。



卒業後は新潟市の診療所で歯科衛生士として働きます。これからも患者様一人一人に寄り添いながら、信頼してもらえる歯科衛生士を目指して、知識・技術等日々勉強に励んでいきたいと思います。

医学部

医学科

長谷川 里紗 HASEGAWA Risa

学生生活で私が印象に残っていることは、5、6年次の臨床実習です。直接患者さんと接しながら医師に必要なことを学びました。臓器や疾患だけを診るのではなく、患者さんがその人らしく生活を送れるよう支援することの大切さや、医師として命を預かる責任の重さも感じました。COVID-19の影響で例年通りの実習とはいかない部分もありましたが、患者さんや先生方に教えていただいたことは私の一生の財産になったと思います。



医師としての知識、技術はもちろんですが、誰からも話しかけられやすく、信頼される医師を目指しています。新潟大学で学んだことを糧に、臨床現場でも患者さんに寄り添えるよう、日々精進したいと思います。

工学部

工学科 電子情報通信プログラム

大谷 真司 OTANI Shinji

私が学生生活で最も印象に残っていることは、スマートドミトリでの研究活動です。私は新潟大学に編入してから一年間この活動に参加させていただきましたが、学生のうちはなかなか経験することができないグループ単位での研究活動を行うことができ、外部発表等で他大学や企業の方と交流する機会も多く、短い期間ながら自分の能力を向上させることができました。



私は新潟大学の大学院に進学予定です。大学院での研究活動ではさらに専門的な研究を行うことになるため、未知の領域に踏み入ることになりますが、発想力を鍛え新しいことを発見できるように精進していきたいです。

医学部

保健学科 看護学専攻

渡辺 千里 WATANABE Chisato

最も印象に残っていることは、助産学実習です。思うようにケアできず、自分の不甲斐なさを痛感する日々でしたが、その分成長することもできました。何より、命の誕生の場に立ち会えたことは大変貴重な経験となりました。コロナ禍にも関わらず実習を受け入れてくださった産婦さん、サポートしてくださった指導者さんや先生方、そして共に励み合ったメンバーには感謝の思いでいっぱいです。この経験は、今後も私にとって大きな励みになると思います。



身体的な痛みはもちろん、精神的な痛みにも寄り添える看護職を目指しています。一人一人の患者様に最善のケアを提供できるよう、就職後も自己研鑽を重ね、自分の中の引き出しを広げていきたいです。

教育実践学研究所

専門職学位課程 教育実践開発専攻
松本 晴菜 MATSUMOTO Haruna

私が学生生活で最も印象に残っていることは、授業や実習を通して様々な人と関わり、教育について考えることができたことです。校種・教科・経験などが異なる院生や先生方との対話では、外化できていない自分の考えを引き出してもらい、探究課題を深めることにつながりました。また、見失いそうになった自分の課題に気付かせてくれたのもこの仲間でした。こんなに素敵な仲間と学ぶことができたことは、かけがえない経験となりました。



これからの教職説明

私は春から小学校教諭として教壇に立ちます。自分を表現できる子どもの育成を目指し、教職大学院で学んだことを現場で還元していきたいです。そして、修了してから志を高くし、学び続ける教師でありたいです。

農学部

農学科 フィールド科学人材育成プログラム
青木 ほのり AOKI Honori

所属するフィールド科学人材育成プログラムでの様々な実習、そして卒業研究での野外調査です。夜な夜な樹木標本の新聞紙を替えたり、ブナの根を丸ごと掘り起こしたり、仲間と野営でフレンチトーストを作ったり…ひとつひとつが忘れたくない大切な思い出です。卒業研究では海岸林の遷移進行について、秋田県～石川県の海岸林を調査しました。実習で見てきた森林とはまた違い、調査地ごとに様々な発見があり、印象に残っています。



これからの教職説明

大学での学びを通して森林の管理・利用の重要性を実感してきました。卒業後は、森林を活用することで自然環境と人々の暮らしを次世代に繋いでいけるような、地域の持続的な発展に貢献する仕事がしたいと考えています。

教育実践学研究所

専門職学位課程 教育実践開発専攻
大竹 直志 OTAKE Tadashi

教職大学院では、院生同士の対話の機会を十分に保障していただきました。その中で、自身の考えをこれまでの経験と重ねながらアウトプットしていくことは自分を見つめ直すことにつながりました。私は現職教員なので、特にストレートマスターとの対話は大変刺激的でした。これまで教育現場で当たり前だと漠然と感じていたことについて、なぜ必要なのか、本当に必要なのか、と常に考え続けることの大切さを痛感しました。



これからの教職説明

大学院の2年間で素晴らしい方々と出会うことができました。その素晴らしき出会いを私だけのものとせず、学校現場の職員と大学教員、院の卒業生とをつなぐような役割が果たせたらと考えています。

創生学部

創生学修課程
安田 昂汰 YASUDA Kota

学生生活を振り返ると、講義でのグループワークや学外学修や長期休暇を利用した旅行、個人研究などを通して学部の仲間と過ごした日常が最も印象に残っています。新設学部ということもあり、先生方と自分達で試行錯誤しながら学生生活を送るうちに、同じ学部の仲間たちとの繋がりを強く感じるようになりました。多くの学生との意見交換や関わり合いのできる良い学部の学生として過ごせたことに誇りを持っています。



これからの教職説明

私は4月から地元である新潟で働きます。環境が大きく変化し、学生時代よりも遥かに忙しい日々が待っていると思います。そんな日々でも、目の前の課題を一つ一つ解決し、より一層精進していきたいと思っています。

Q1 学生生活で最も印象に残っていることを教えてください。

保健学研究科

博士前期課程 保健学専攻

上村 柊太 KAMIMURA Shuta

大学生になり、家族と会話をする機会が増えました。高校生のときは、反抗期だったことに重ね、勉強・部活と常に時間に追われていたため、家族との会話も多くはありませんでした。大学生になり、時間に余裕ができたことで、家族と一緒に出かけたり、団欒の時間も多くなりました。たまには実家から食料品などを送ってもらったり、自分は家族に支えてもらって生きていることを実感しました。家族のみんな、これからもよろしく。



地域医療を支える一員として、患者さんに寄り添える診療放射線技師を目指たいです。新潟大学で学んだことを活かし、病院で働いていくうえでも常に自己研鑽に努め、医療人として成長するべく努力を重ねたいです。

現代社会文化研究科

博士前期課程 現代文化専攻

高橋 日花里 TAKAHASHI Hikari

生涯スポーツ論演習という授業で、受講している仲間たちとスキー実習に行ったことです。滑っている様子を動画で撮り合い、スキーを専門とされている先生からご指導をいただいたり学生同士で意見を交わしたりしながら技術を磨きました。それぞれが普段学んでいる専攻分野は違いますが、単位を取り終えた今でも連絡を取り合っています。お互いを高め合える友人ができたことで、より充実した学生生活になりました。



この2年間で、子どものために力を尽くしたいという思いがより強くなりました。特別支援教育を学んできた者として、子どもたちやその家族に寄り添い、すべてを包み込めるような温かい教師を目指します。

医歯学総合研究科

修士課程 医科学専攻

池田 和泉 IKEDA Izumi

最も印象に残っていることは米国糖尿病学会です。2型糖尿病と小児肥満に関する研究について発表しました。初めての国際学会で規模に圧倒されたことを鮮明に覚えています。

学部時代は他分野の研究を行っていたこともあり、入学当初は右も左もわからない状態でしたが、先生方の熱心なご指導によりレベルの高い研究に触れることができ、とても貴重な経験となりました。



卒業後は博士課程に進学し研究を続けながら、病院で管理栄養士として働きはじめます。これまで学んだことを生かし精一杯頑張りたいです。

自然科学研究科

博士前期課程 材料生産システム専攻

柄木田 航介 KARAKIDA Kosuke

学生生活を通して印象に残っていることは部活動です。大学は新しいことに果敢にチャレンジできる場所。そう思いチャレンジした一つが将棋部での活動でした。高校までの部活動とは異なり、先輩や後輩との交流も深く様々な経験を得ることができ、人間としても大きく成長した6年間となりました。学業はもちろん大切ですが、それ以外のことに本気で取り組むことで得られた経験はかけがえのないものであり、私の人生の糧となると思います。



総合大学ならではの多様性のある環境で過ごした6年間は、私にとって有意義な時間でした。研究室で習得した技術や知識だけでなく、部活動で得た経験は今後の人生において大きな飛躍の力になると確信しています。

教育学部

学校教員養成課程 社会科専修
矢島 直弥 YAJIMA Naoya

私は小学校の教員になることを目指し新潟大学教育学部に入学しました。しかし大学で社会科の専門的な講義を受け、中学校教員として社会科の魅力を伝えたいという思いもありました。そのような中で、3年の教育実習がありました。授業をしたり、子供たちと接したりすることを通して、小学校教員の魅力を肌で感じ、小学校教員になることを決めました。そして、自分の生まれ育った地で教員をしたいという思いから、新潟県の小学校教員を目指しました。



これからの
教員生活

私は教科指導の力がある教員になりたいと思っています。子供たちからわかりやすい、面白いと思ってもらえる授業ができるように、日々教材研究に励み、実践を重ねていきたいと思っています。

| 特集 | 卒業生・修了生からのメッセージ

新たな夢へ 踏み出す一步



～新潟大学での学びと感謝を胸に～



Q2

卒業後の進路を選択したきっかけを教えてください。

法学部

法学科
小滝 はるか OTAKI Haruka

県庁のインターンシップで難病患者に関する業務を経験したことがきっかけです。新潟県には難病患者が多く、仕事量は膨大です。そのような環境でも淡々と業務をこなすのではなく、患者さんの気持ちに寄り添いながら医療関係者の方々と話し合いを重ね、県として何をすべきかを真剣に考える県職員の姿に心を打たれました。この経験から、一人でも多くの県民が暮らしやすいと感じることのできる新潟県の実現に貢献したいと考えました。



これからの
県職員生活

私は春から県職員として働きます。まだ配属先は決まっていますが、この4年間で身につけた忍耐力や柔軟性を活かして、どのような仕事にも真摯に向き合いたいと思います。

人文学部

人文学科 西洋言語文化学プログラム
蓼和 めぐみ MINOWA Megumi

卒業後は言語聴覚士の養成校に進学します。この仕事をきちんと知ったのは、3年次に受講したキャリア科目の授業でした。私自身幼少期に構音障害を患い、言語聴覚士の方に訓練していただいたのですが、授業で改めてその仕事について知り、興味を持ちました。その後も実際に現場で働く方にお話を伺ったり、調べたりしていくにつれ、コミュニケーションや飲食など人間の本質に関わる仕事に惹かれていき、養成校への入学を決意しました。



これからの
養成校生活

言語聴覚士は、人間が生きていく上で最後まで持ち続ける楽しみや生きがいを支える仕事です。患者さんの人生を想いながら、共に成長できる言語聴覚士になれるよう日々精進していきます。

医学部

医学科
森下 健 MORISHITA Ken

私は埼玉県出身ではありますが、卒業後は新潟県で医師として働くことを決めました。そのきっかけとしては、4、5年次の臨床実習を通して、先生方の指導や教育がとても手厚く、新潟県全体として若い医師や学生を育てていくという雰囲気を感じたからです。これから医師としての経験を積んでいくにあたって、そのような体制がそろっていることは非常に心強いと感じています。



将来の診療科はまだはっきりと決めてはいませんが、内科系を考えています。新潟県の病気で苦しんでいる方をきちんと診断、治療できるように、日々勉強し、経験を積むことを全力で頑張りたいと思います。

経済学部

経営学科
田村 彩莉 TAMURA Ayari

はじめは、中学校か高校の先生になることを目指して、経済学部から教育学部まで通いつつ教職課程の授業を取り続けてきました。ある時、教職課程の授業の一環で教育に関わる法とそれに伴う地方の実態について学んだ際、日本には学びたい意志があっても経済的等様々な事情で学ぶことのできない子供たちが一定数いることを知り、教員の仕事だけではカバーしきれないそのような子供たちを行政の立場からサポートできる仕事がしたいと考え、公務員になる決意を固めました。



大学に入学してからの4年間で学んだことや多くの出会い、経験したことを活かして、市民の方々の声に耳を傾け、寄り添いながら行動していける、そして自分自身も日々学び続ける職員になりたいです。

医学部

保健学科 放射線技術科学専攻
土屋 彩圭 TSUCHIYA Ayaka

小学生のころ東日本大震災を経験し、医療に携わる仕事に就きたいと思い始めました。とは言うものの、当時は放射線について良い印象は全くありませんでした。しかしある日、放射線を使って病気の治療が出来ることを知りました。放射線は危険という印象しかなかった私にとってはとても衝撃的で、放射線技師という職業に興味を持ちました。卒業研究では災害時を想定した医療への理解を深め、より放射線技師として働きたいという思いが強くなりました。



卒業後は、地元である栃木県の病院で診療放射線技師として働きます。自分が思い描いていた環境で働くことが出来ることに感謝を忘れず、新潟大学で学んだことを活かして自分に出来ることを精一杯頑張ります。

理学部

理学科 物理学プログラム
田中 桃子 TANAKA Momoko

私は約1年間の社会人経験(営業職)を経て新潟大学に入学しました。入学当初から卒業後は学びに関わる職に就きたいと考え、教員免許の取得を目指しました。教科や教職についての授業を受ける中で、新たな知識に触れて理科の魅力を再発見できたことが進路決定に大きく影響しています。座学と実習を通して知った物化生地の魅力を生徒に伝えるとともに自分自身も学び続けながら楽しみたいと思います。



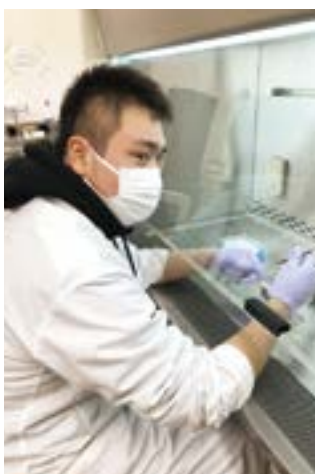
日々の業務に忙殺されることなく、初心を大切に業務に励みます。理想を求めながら働くことは時に困難かもしれませんが、友人や先輩方の話を聞きながら様々な可能性を探っていきたいと思います。

農学部

農学科 応用生命科学プログラム

岡村 龍盛 OKAMURA Ryusei

卒業後は新潟大学大学院自然科学研究科に進学します。入学時は微生物について学びたいと考えており、その時には既に大学院に進学すると決めていましたが、新潟大学の大学院に進学するかどうかは未定でした。しかし3年生の時に応用微生物学研究室に分属され、細菌の遺伝子発現制御機構についての研究を進めていくにつれて、このテーマについてより深く研究をしたいと考え、この進路を選択しました。



これからの
大先輩

新型コロナウイルスの蔓延により不安を感じることがありますが、研究の楽しさを忘れずに頑張りたいと思います。

歯学部

歯学科

柏原 佳来 KASHIWABARA Yoshiki

卒後は歯科・口腔外科のある病院で研修医として働くことになりました。新大での病院実習の中で患者さん一人一人の体の状態や考え方に沿った治療方針を考えなければならないことを実感し、お口の状態だけでなく全身の病気との関わりについても学びたいと考えるようになりました。高齢化社会で様々な疾患を持った患者さんが増えている中で患者さんに最適な治療を選択、実践できるようになるため、この進路に決めました。



これからの
大先輩

新大の病院実習で学んだことを活かし、患者さんに最良な治療を提供できるようにになりたいです。「先生に診てもらえて良かった」と言ってもらえるような歯科医師になれるよう、努力していきます。

創生学部

創生学修課程

小林 夕夏 KOBAYASHI Yuka

私の進路決定に大きな影響を与えたのは、プロジェクトゼミで「郷土愛」について考えたことです。3年次に5人のゼミのメンバーと「大学生観光まちづくりコンテスト」に挑戦し、「郷土愛の醸成」をテーマにプランを作成しました。このことを機に、自分が住む新潟についても考えるようになり、「県民が『新潟が好きだなあ』と思ってもらえる仕事があった!」という想いが強くなりました。



これからの
大先輩

私は卒業後、「新潟のために」という熱い想いを持った企業で働きます。新潟愛を育むことで、この地域に永住する人を増やすことに貢献したいです。大学生活で抱いたこの気持ちを大切にします。

工学部

工学科 社会基盤工学プログラム

寺崎 那央子 TERASAKI Naoko

在学中のインターンシップ経験が卒業後の進路選択のきっかけとなりました。入学当時から土木関係の職に就きたいと漠然と思っていましたが、実際にインターンシップに参加することでその思いが強くなりました。施設見学や業務体験をさせて頂いたことで、土木がいかに社会を支えているのかを実際に感じる事ができました。また、職員の方の具体的な仕事内容や職場の雰囲気を知ることができたことも就職先を決めた理由の一つです。



これからの
大先輩

これから社会人として上手くやっていけるか不安はありますが、この4年間のように多くの学びと出会いがあるだろうと思っています。そういった機会をより大切にすることで、自分の可能性を広げていきたいです。

Q2

卒業後の進路を選択したきっかけを教えてください。

保健学研究科

博士前期課程 保健学専攻
土門 美緒 DOMON Mio

私は学部卒業後、博士前期課程へ進学し、病院とは離れた、研究職につきたいと考えていました。しかしながらこの2年間で、病院で働く医療職の方と関わる機会が増え、そこで働く方々のもつ、患者さんへの思いに触れる度に、私も臨床に携わりたいと思うようになりました。小さな頃の「命を助ける仕事がしたい」という夢を思い出した瞬間でもありました。この志を忘れずに春から検査技師としての仕事に精進していきたいと思います。



社会に出れば今まで以上に辛いことや困難にぶつかることが多いと思います。ですが、そんな状況でも、いつでも笑顔を忘れずに自分らしくいることを大切に生きていきたいです。

現代社会文化研究科

博士後期課程 共生文化研究専攻
鄧 宇陽 DENG Yuyang

2016年まで、中国の南国商学院で日中言語翻訳の授業を担当していました。その後、母国語及び日本語に対する認識不足を痛感したため、大学を辞めて日本へ留学しました。新潟大学で日中言語の文法構造を体系的に研究し、他の大学で非常勤教員として自分の研究成果を言語教育に活用してきました。今後は母国の大学に戻り、日本であげた研究成果や身につけている認知言語学の知識などを母国の言語教育にも活用しようと思います。



学部生時代に、日本語を専門としていた私は日中両国の友好の懸け橋になろうと決意しました。そのため、初心を忘れず、今後教育の面から日中の友好交流に生涯尽力していきたいと思います。

医歯学総合研究科

博士課程 口腔生命科学専攻
日吉 巧 HIYOSHI Takumi

大学院で歯周病の研究に励む中、多くの研究者が自身の信念のもと、素晴らしい研究をされている姿を拝見しました。世界中で行われている研究活動の一端に触れることで、今後も研究に携わりたいと思うようになり、大学に残ることを決めました。卒業後は歯周診断・再建学分野に所属し、お口に問題を抱える患者様を治療することに加え、医療の発展に貢献できるよう努力してまいります。



臨床も研究も、学ぶべきことは尽きないと強く認識する四年間でした。研究者としての留学を目指しながら、患者様のため、自分のために日々成長できるよう精進します。

自然科学研究科

博士前期課程 数理物質科学専攻
石倉 来実 ISHIKURA Kurumi

私は大学3年生の時に参加したインターンをきっかけに卒業後の進路について考え始め、最終的に就職先を選ぶ上で決め手となったのは職場の雰囲気でした。また、進路選択で大切にしたいことは、人々の生活の役に立つ仕事であるということ、ワークライフバランスがしっかりと取れることです。仕事は今後の人生の一部となるので、どのように働きたいか、また何を大切にしたいかをよく考えて進路選択を行いました。



私は卒業後、国家公務員として働く予定です。大学院では、専門知識だけでなく学部だけでは学べなかった様々な知識や経験を得ることが出来ました。この2年間で学んだことを今後しっかりと役立てていきたいです。



新潟大学全学同窓会

全学同窓会白杵勇人会長インタビュー

全学同窓会の活動について、
白杵勇人会長にインタビューしました。



全学同窓会の理念や目標について教えてください。

全学同窓会の目標は、「新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図る」ということです。この目標達成に向けて、会員への情報提供・サービスを充実し、大学の発展・社会貢献を推進して、「会員にとって同窓会の存在が実感できる同窓会づくり」、「母校とそこで学ぶ学生さんを支援できる力量ある同窓会づくり」を目指しているところです。

全学同窓会の活動や事業について教えてください。

広報紙「雪華」の発行、メールマガジンの配信、年に一度「全学同窓会交流会・講演会」（新潟大学と共催）の開催、大学との懇談会の開催、「新潟大学カード」（クレジットカード）事業、母校支援事業、学生さんのサークルや活動を支援するための「雪華支援事業」などを行っています。

「雪華支援事業」では、学生さんの活動に年350万円程の支援を行っています。

「新潟大学カード」の収益も学生さんの支援事業に充てています。入会

卒業したら...

新潟大学カードに入会しよう!

新潟大学カードはVISA付きの国際カード

新潟大学カードに関するお問い合わせは...

新潟大学全学同窓会事務局 TEL:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00) E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

入会費・
年会費無料



費・年会費無料のクレジットカードです。皆様方にも卒業を機に是非ともご入会いただきたいと思います。

学生、卒業生に一言お願いいたします。

母校が教育・研究の実を挙げ、母校の評価が一層高まることは、同窓生みんなの願いです。何よりも教職員、学生の皆様のご努力・ご活躍に期待しますが、同窓生一人一人がそれぞれの社会でご活躍され、同窓会活動にご支援・ご協力いただき、さらに母校と学生さんを力強く応援していきたいと思っています。コロナ禍の中、卒業生の皆様にとっては本当に辛く苦しい一年になったことと思います。ピンチをチャンスに変えて卒業生される皆様の前途に幸多かれと祈り、ますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

【新潟大学全学同窓会HP】 <https://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/>

【新潟大学全学同窓会事務局】

TEL:025-262-7891 (受付時間 平日10:00~15:00) FAX:025-262-7892

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

ご寄附とご協力をお願い

新潟大学まなび応援基金

【目的】「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」をはじめ、経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援事業を行います。

■支援事業(支援事業を指定してのご寄附はできません。)

- 入学科、授業料及び寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- 学資金を貸与または給付する事業
- 学生の海外留学に係る費用を負担する事業 など

■税法上の優遇措置

個人:税額控除と所得控除を寄附者が選択

法人:全額損金に算入可能

新潟大学基金

【目的】新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、研究活動支援、学生の厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附目的

- 基金事業全般(大学全体の支援、教育活動の支援、学生の修学支援、研究活動支援、国際交流活動支援、キャンパス整備支援、地域・社会貢献活動支援)

- 国際交流の推進 ●病院運営の支援

■税法上の優遇措置

個人:所得控除 法人:全額損金に算入可能

新型コロナウイルス感染拡大に伴う 修学支援募金(まなび応援基金)

新型コロナウイルス感染症の影響により、家計が急変した学生に対して、本学独自の支援制度「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」をスタートさせました。

志ある学生が学業を断念しなくて済みますように皆様からのご寄附を賜りますようお願いいたします。

【サポート内容】

〈修学・学生生活支援〉

- ・Wi-Fiフィルターの貸出
- ・授業料等の納付期限の延長
- ・学生ピアサポート

〈経済支援〉

- ・新潟大学新型コロナ対策緊急支援金(貸与)
- ・新潟大学修学応援特別奨学金(給付)
(新型コロナ対策特別支援)
- ・学生自立支援(アルバイト提供)

学生からの相談に対応するため「新型コロナ対策緊急学生サポート窓口」も設置しました。

今 すぐ に 寄 附 を す る

(本学の基金ホームページ)



まなび
応援基金



新潟大学
基金

【基金ホームページ】 <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

【お問い合わせ先】新潟大学サポーター連携推進室

TEL:025-262-5651・6010・6356(平日9:00~17:00)

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

個人情報の取扱いについて

■新大広報では皆様からお預かりした個人情報につきまして、責任をもって管理することをお約束いたします。

■アンケートや誌面へのご意見、掲載希望他、お預かりした個人情報は新大広報の企画の参考にさせていただきます。この目的以外に使用したり、第三者に提供したりいたしません。

新大広報 Back Number

新大広報のバックナンバーは新潟大学ホームページで公開しています。

また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

新大広報

検索



Follow us!

新大広報公式
Twitter



新潟大学公式 SNS



Twitter



Instagram



Facebook

2021年 卒業記念号 [No.217]

2021年3月発行

編集・発行／新潟大学学務部・新潟大学広報室

印刷／(株)第一印刷所



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

新潟大学ホームページ

<https://www.niigata-u.ac.jp/>